



加藤 元の



と暮らして
みませんか

13

飼い主との散歩、運動や遊びは犬にとっても最高に楽しいものです。人が外出したり、友人に会ったり、ショッピングや町の変化、新しいファッショションなどを見たいという好奇心を満たすのと同様です。だから散歩に出かけて異なった環境にいる時も教育やしつけ、訓練のよいチャンスなのです。

散歩では次のことを守りましょう。犬がしつけをしつかり身につけているかどうかを試したり、評価したりする良い機会です。

散歩用の引き綱をつけるときも「おすわり」「待て」と言って、犬を座らせて用意します。外出中は

散歩

教育やしつけのチャンス

必ず引き綱をつけて持つのが義務です。部屋や家から出る時も、犬に戸口でお座りさせて、飼い主が先に出て「おいで」と声をかけてから犬を呼んで外に出ます。こうすることで、犬は飼い主をリーダーと認め、犬が突然飛び出して起こる痛ましい「交通事故などの防」になるのです。

飼い主は、必ず腰にごほうび用のドッグフードを入れておくポシエツトをつけましょう。歩くときは引き綱を短く持ち、飼い主の左足にピタツとつくようにして、犬が前に出ないように歩きます。時々、持っているドッグフードを一粒あげてほめてやります。このようにして歩くことになれば、ごほうびをやらなくても、犬は自分から進んでこのような歩き方ができるようになります。

超小型犬は、たとえ集合住宅の一室でも、大きな運動場になります。中型犬や、特に大型犬、超大型犬ではそうはいきません。散歩の意義ややり方は変わりません。大切なことは、十分な運動量を確保する必要があることです。

ですから、犬を飼う前に、皆さんの飼育環境に応じた犬種、特にサイズと必要となる運動量をどうして確保するかなどを十分に考慮しておく必要があります。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長)

《産経新聞2004年6月27日掲載》